

どう守る... こどももの命

〈下〉

児童虐待の問題に、医療がもっと関わっていくべきだ。親が子どものけがについて「転んでできた」と話しても、説明がつかない場合もある。「ご飯を食べない」と言っても、病気や発達障害によるものか、それとも食べさせていないのか。児童相談所や警察が判断できなくても、医師の目を通せば可能になることもある。

東京都内で死亡した5歳女兒の主治医 木下あゆみさん

り、児相へのつなぎ方が分からなかったりする医師もいる。医学部で児童虐待問題を学ぶことを必須にするべきだ。

私が勤務している「四



インタビューに答える、東京都内で死亡した5歳女兒の主治医を務めていた木下あゆみさん

職域越え支援の網を

国こどもとおとなの医療センター」では日頃から児相や警察、検察との合同研修や勉強会を開いている。お互い顔が見える関係になれば「ちょっと気になる子どもがいるか

きのした・あゆみ
1974年徳島県生まれ。四国こどもとおとなの医療センター医師
部分が重なり、支援のネットができる。

昨年3月に東京都内で虐待を受けて亡くなった5歳女兒も転居前、香川県内にいた頃は、私が主治医を務めていた。

香川にいた頃は、関係機関で守ろうとしたが、東京への転居をきっかけに支援のネットからこぼれ落ちてしまった。救えなかった悔しさは今もある。だからこそ、この女の子が後押ししてくれると信じて、虐待防止に力を尽くしたい。